

# 「生物学的製剤」でリウマチが治る？

## Q：リウマチとは？

全身の様々な関節が腫れて痛み、徐々に変形してくる関節リウマチ。その患者数は全国で百万人以上と推計されています。発症年齢のピークが30～50歳代で中高年者の1%以上がかかっていることになります。また女性に多く、中高年女性にはとても身近な病気といえます。にも関わらず、リウマチは死に直結する病気ではないせいか、ガンや脳血管障害などに比べると一般的には余り知られていないのではないのでしょうか？

## Q：従来のリウマチ治療

関節リウマチに特徴的な症状である関節の腫れと痛みの原因は、関節に起こる炎症です。自分を守るはずの「免疫」が自分自身を攻撃し、関節滑膜に炎症を起こすのです。炎症が続くと骨も破壊し、関節に変形を来します。治療の初期段階で用いられるのが「抗炎症剤」という炎症を抑えて痛みを和らげる非ステロイド系抗炎症剤です。ステロイド剤も同様の作用で、根本的治療剤ではありません。リウマチの診断が確定した段階で開始する薬が「抗リウマチ剤」という、免疫の異常を改善して病気の進行を抑える免疫調節作用を持つ薬です。これだけで病気がコントロール可能な患者さんもおられます。ただし副作用が出やすく、専門家による管理が必要です。

## Q：「生物学的製剤」の登場

近年リウマチの免疫異常の仕組みが解明され、関

節で炎症が起きると、関節内の細胞からサイトカインという物質が次々と放出され、炎症を悪化させることがわかってきました。その主役を担っている物質は、腫瘍壊死因子（TNF- $\alpha$ ）やインターロイキンという悪玉サイトカインです。こうした物質に直接働く薬が開発され、画期的な効果を上げています。この薬剤は「抗体」という免疫タンパク質です。遺伝子組み換え技術で作られるため「生物学的製剤」と呼ばれています（図）。

リウマチ専門医の間では「これらの薬には従来の薬とは比較にならない革命的な効果があり、リウマチが治癒可能な病気になりつつある」と高い評価が得られ

ています。特に発症5～8年程度の比較的早期の患者さんでは完全に治ることが期待できます。ただし、結核などの感染症にかかりやすくなるという副作用があり、しっかりした観察を基に投与する必要があります。

当院においてもこれらの薬剤を積極的に用いて成果を上げています。リウマチでお悩みの方は是非内科窓口にご相談ください。

内科（リウマチ専門医） 加藤 弘巳

